

第31回京都府医療対策協議会開催概要

- 1 日 時 令和元年11月25日(月) 15時30分～17時
- 2 場 所 京都ガーデンパレス「祇園の間」
- 3 出席者 京都府医療対策協議会構成員 17名 (傍聴なし)
- 4 概 要 以下のとおり

【 1 報告事項 】

専門研修プログラムについて

[意見質疑]

- 来年度の一次募集状況についてシーリングを越え応募があるのは小児科、整形外科。
内科系診療科の応募が少ない状況。実績が翌年の数に反映されるため、二次募集で確保を望む。

【 2 協議事項 】

- ・ 医師偏在指標について
- ・ 医師確保計画中間案について

[意見質疑]

- 医師の働き方改革が進むと、長時間勤務の可能性のある診療科を選択する若手は少数となること
と予想される。働き方を考え、長時間勤務をなくすためにも医療提供体制の見直しは必要だが、現時点では方向性を示されれば良い。
- 脳血管疾患、心疾患、周産期の3つの分野を重点領域として、医師及び必要な医療提供体制を
確保していきたく、今回の計画で方向性を提示。特定の領域を考えていくと、1診療科だけで
なく、他診療科の医師や看護体制、医師以外の医療職等医療機関全体的に検討する必要がある。
- 自治医科大卒の医師、地域卒の医師が、北部や医師少数区域で活躍できる環境づくり及び過疎
地域の医療提供体制整備を京都府において進められたい。
- 京都府独自の医師偏在指標、医師少数スポットの設定、重点領域として緊急を要する疾患に着
目したことは賛成。今後、診療科偏在をカバーして、医療圏の医療需要にどう応えるかを考え
ていく必要がある。
- 今の専門医制度では地域卒の学生は、カリキュラム制も適用できるようにしないと病院の選択肢
が非常に狭くなる。医療圏を越えての連携など柔軟性を持った対応が必要。
- 外来医療や在宅医療をどう広げていくかが課題で、若い医師にも今後のニーズを知ってもらい、
総合診療医や病院の外来機能を担う医師を養成することやベテラン医師が開業する際、地域に
必要な医療について情報提供することで、地域医療を支えることが可能となるのではないか。
- 市町では開業医が減ってきており、公立病院を整備し、住民を支えることが必要である。
災害時においても病院があると住民が安心するのではないか。